花柳界

雲地草夫

Q：高校生からの質問。「芸妓はとんでもないデブなんですか？」
A:知らねーよ。ただ質問の意味はわかります。通常の客、つまり常連客は、いきつけの店ができると、まず好みの芸妓を探し始めます。そして好みの芸妓を見つけたら、店に行くたびに必ずその芸妓を指名します。それが普通の常連客です。常連客はその芸妓にお金をどんどん貢ぎます。質問者の高校生が心配しているのは常連客のことではないのでしょう。高校生が心配しているのは、一見さんとフリーの客のことです。常連の旦那さんがお金をどんどん貢いでいるほかに、一見さんとフリーの客からも金をがめているんじゃないかということですね。特にフリーの客がうろからうろから花柳界を俳諧しているうちに芸妓がどんどんデブになっていくんじゃないかということを心配しているのですね。

杞憂だと思います。まず、フリーの客はすぐ死にます。フリーの客は、番頭さんたちに嫌われています。フリーの客が店に来ると番頭さんたちはこんなことを言っているのでしょう。「またブタがきやがった。あいつどうするよ。」「ちょっと姉さんに電話してみ。」「もしもし、姉さんですか。ブタがまた店に来てるんですがどうしましょう。」「ブタ来てるのかい。しょうがないねえ。私が行くから１、２時間待たしときな。わたしが行ったら適当に酌しとくから。」
フリーの客の酌をする芸妓は、必ず暇をもてあましています。指名がかからずにいつも支度部屋で油を売っている芸妓たちばかりです。こんなことを言っているかもしれません。「またフリーの客来てるよ。」「あんた行きなよ。あたしは嫌だよ。」「えーあたしー。あんたが行ってよ。」「しかし何の仕事してるのかねえ。しぶとく生きてるねえ。」「仕事の方はなかなかの腕前なのかねえ？」

というように、大抵の常連客は特定の芸妓さんを指名します。一見さんとフリーの客は、暇な芸妓さんが相手をします。一見さんとフリーの客は、間に入っていくシステムになっています。お菓子の製造工場のように、お菓子がベルトコンベアーで運ばれていって次々に箱詰めされていくのとは様子が違います。もし、芸者のお店が、ベルトコンベアーに乗っているお菓子のように、最初に来た客に一番目の芸妓さんがついて、二番目に来た客に二番目の芸妓さんがついて・・という具合になっていたら、状況は変わるかもしれません。どんどんどんどん客と芸妓さんのマッチングが変わっていって、店全体が百貫デブの饗宴みたいになってしまうかもしれません。

ただ釘を刺しておきますが、フリーは危険だといわれています。人生に絶望して「もう死ぬんだ」と心に決めている人にもお勧めしません。番頭さんたちがこんなことを言ってるかもしれません。「おいあのブタそろそろしめようぜ。」「どうやってしめます。」「おもしろいアイデア出せよ。」

芸妓さんはゆくゆくは、モノホンの旦那さんの奥さんになるか、二号さんになります。若くてき

れいなうちに引っ込んでしまうようです。容姿端麗な芸妓さんは座敷に上がるやいなや売れてしまいます。

芸妓さんがデブなのかどうかは、自分で考えてみてください。